

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県	高 知 県
------	-------

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	高知市立介良小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	障害児学級	計	教員数
学級数	3	2	2	2	2	2	3	16	26
児童数	94	76	78	67	76	72	5	468	

研究の概要

1. 研究主題

未来につながる学力の保障 - ともに聴き合い学び合う子どもをめざして -

2. 内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年 算数科
系統性が高く、定着に個人差が顕著に現れる傾向があるため。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度

テーマ
相互交渉を生かした授業展開の研究
仮説
メタ認知的な知識を持って、実際に課題に取り組むための心の働きをコントロールする自己制御の過程を明らかにする。それによって、自己内対話ができ、自分の学習プロセスを点検し、自分なりに納得する学習過程を積極的に作り上げていくようになるであろう。
それに至るには、「何をどのように学んでいるか」「どこが大事か」「どこをよく間違えるか」あるいは「どういう考え方があるか」ということをことばで自問自答する習慣が必要である。
そのため、児童による自己評価表を実施するとともに、相互交渉の場を保障することで協同的問題解決学習が成立し、集団思考の力を伸ばすことが可能となるであろう。

研究の内容・方法

(1) 学年主体の研修
算数科の課題別・習熟度別等の指導形態において少人数指導を行う際に、学習展開が共通の形になるよう基本プロセスを明確に位置づけていき、日々実践する。

(2) 校内研修
毎月1回程度、指導方法に関する研究を行うと共に、各学期末には、各学年の研究成果と課題をもとに、自己評価表等に関する研究協議を行う。（授業研究を中心として）
また、月1度、毎時間の算数複数指導に入る教員（本校での「副担任」）による指導方法研究会を持つ。

(3) 外部講師招聘による研修
自己評価のあり方、相互交渉について、指導と評価の考え方等年間2名の講師をフロンティア事業として招聘し研修を深める。

(4) 個人テーマによる研修
各教科・領域・時間等における「基礎的・基本的な力」の追求をめざし、教員個々に得意分野を個人テーマとして設定し、公開授業の実施などによって基本的な指導力の向上を図る。

(5) 到達度把握調査
3・5・6年生の国語・算数の到達度を把握し指導に生かす。

平成 15 年度	<p>テーマ 相互交渉を生かした授業展開の研究</p> <p>仮説 自己評価表の活用を継続・推進するとともに、評価規準に基づいた客観的な評価を研究・定着させる。それによって、次の学習に生かすべき課題を把握することができ、個人及び集団としての思考能力を高めるための授業改善につながるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 研究推進部により、年度の中心的テーマを決定し、学習研究部によって具体的研究内容を提示する。 平成14年度の研究方法を基本とし、各学期末には、各学年の研究成果と課題をもとに、自己評価・評価規準を中心に研究協議を行う。 月1度、毎時間の算数複数指導に入る教員による指導方法研究会を持つ。</p> <p>(1) 学年主体の研修 テーマに沿った実践を行う。 データ収集に努める。</p> <p>(2) 校内研修 毎月1回程度、指導方法に関する研究を行うと共に、各学期末には、各学年の研究成果と課題をもとに、自己評価表等に関する研究協議を行う。 (授業研究を中心とする) また、月1度、毎時間の算数複数指導に入る教員による指導方法研究会を持つ。</p> <p>(3) 外部講師招聘による研修 評価規準のとらえ方、自己評価のあり方と相互交渉について、年間2名の講師をフロンティア事業として招聘し研修を深める。</p> <p>(4) 到達度把握調査 3・5・6年生国語・算数と2・4年算数の到達度を把握し、指導に生かす。</p>
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 相互交渉を生かした授業展開の研究</p> <p>仮説 個人の自己コントロール能力をさらに高め、相互交渉を機能的に成立させることで、自己評価がより集団の思考へ寄与するようになるであろう。 また、集団での認め合いが各自の自己強化に反映されるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 (1) 学年主体の研修 研究推進部により、年度の中心的テーマを決定し、学習研究部によって具体的研究内容を提示する。 平成15年度の研究方法を基本とし、学年・全校、及び加配教員等の単位で、連携の取れた研究を進める。</p> <p>(2) 校内研修 毎月1回程度、指導方法に関する研究を行うと共に、各学期末には、各学年の研究成果と課題をもとに、評価のあり方を中心に研究協議を行う。 (授業研究を中心とする) また、月1度、毎時間の算数複数指導に入る教員による指導方法研究会を持つ。</p> <p>(3) 外部講師招聘による研修 年間2名程度の講師をフロンティア事業として招聘し、年度テーマにそった研修を深める。</p> <p>(4) 到達度把握調査 3・5・6年生国語・算数と2・4年算数の到達度を把握し、指導に生かす。</p>
----------------	---

(3) 研究推進体制

学力向上フロンティア事業推進委員会
メンバー：校長、教頭、教務主任、研究主任、研究部長

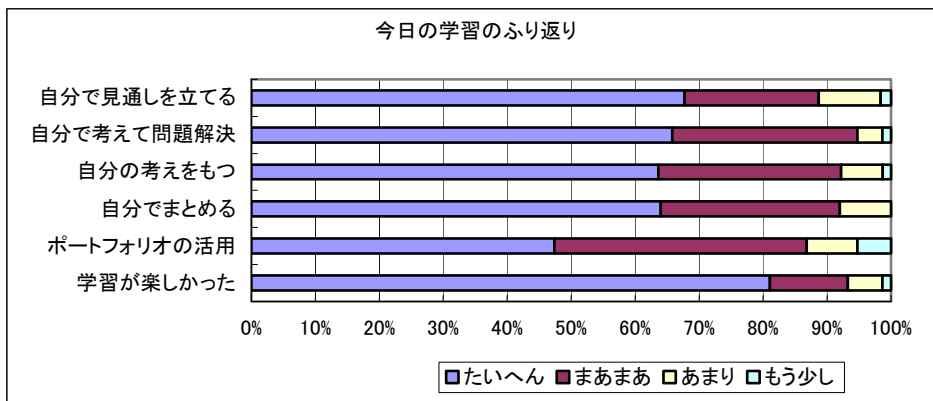
平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・ 加配教員を加えた複数の教員による個に応じた指導，指導方法の見直しにより，児童が意欲的に学習に取り組めるようになってきた。
- ・ ふり返りカードや学習感想を書くことで，児童一人ひとりがこれまでの学習の過程をふり返ることができて，児童が授業を創造していく主人公としての自覚が育ちつつある。(資料 参照)
- ・ 基礎・基本の大切さ，「未来につながる」視点での学力観などを保護者に提起し，論議できた。
- ・ 校内研修開催の効果で学習指導要領の改訂の趣旨や内容が再確認されるとともに，各教科の評価規準を検討するなど，評価観を築こうとすることで，児童の実態に即したより効果的な指導方法に取り組めた。
- ・ 課題解決を通して児童が理解を深めていく過程を重視しようとする方向性が見いだされてきた。一面的な評価観から脱し，継続性のある評価を指導方法の改善へとつなげることによって，個々の教師及び学校としての資質向上，児童の基礎・基本の定着が促進された。
- ・ 少人数授業・習熟度別コース選択学習，またスモールステップ式学習プリントの活用など，個に応じた指導形態・指導方法を取り入れることで，児童の自己診断能力や学習に対する目的意識が育ってきた。

資料 (情意面アンケート)

学習の達成感や関心・意欲・態度面に関するアンケートを実施した。少人数学習においては，ほとんどの児童が，意欲的に学習に取り組むことができていた。
(第5学年 「面積の求め方を考えよう」)



2. 課題

- ・ 個に応じた教材・教具の工夫や開発をさらに進めていきたい。
- ・ 個々の学習意欲を高める個に応じた評価のあり方の研究をさらに進めていきたい。
- ・ 評価と指導の一体化についてさらに研究を深めていきたい。
- ・ 指導方法の中でも習熟度別指導に向けて児童・保護者の理解を深めていきたい。

学力把握のための学校の取り組み

4月末に，国語・算数(3・5・6年)，算数(2・4年)の「観点別学習状況」「評定」到達度診断把握のための検査を実施し，結果を1学期中に分析・考察する。

- ・フロンティアスクールとしての成果の普及について
- ・研究会、説明会等の開催実績及び開催予定
- 【実績】 各月に実施している参加日（参観日）での公開授業で、少人数制指導の算数授業を各学年で見てもらい、普及に努めている。
 確かな学力をつける取り組みについての学校説明会を保護者対象に昨年度末に開催した。
 学校便りによる普及（別添資料）
- 【予定】平成16年6月25日（金）研究発表会開催

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- | | | | |
|----------------------|----------------------------|-------------------|------------------------|
| 【新規校・継続校】 | 15年度からの新規校 | 14年度からの継続校 | |
| 【学校規模】 | 6学級以下
13～18学級
25学級以上 | 7～12学級
19～24学級 | |
| 【指導体制】 | 少人数指導
一部教科担任制 | T・Tによる指導
その他 | |
| 【研究教科】 | 国語
生活
体育 | 社会
音楽
その他 | 算数
図画工作
理科
家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | | 有 無 | |